



# リスクアセスメント推進大会

## 2019あいち

### <報告内容>

1. リスクアセスメントの理解
2. 従来のリスクアセスメントの取り組み
3. 災害発生への対応
4. 新たなリスクアセスメントの取り組み
5. まとめ

名古屋西労働基準協会  
前安全衛生実務研究会会長

東レ株式会社 愛知工場  
環境保安課  
吉竹 彰

会員事業所 : 658社



安全衛生実務研究会は、名古屋西労働基準協会を事務局とし、製造業、建設業、陸上貨物運送事業、サービス業などの17社が集まり、安全衛生活動の情報交換と各社のレベルアップに取り組んでいる。



# 1. リスクアセスメントの理解

まず、始めたこと

各社の安全実務担当者で勉強、討議を実施

- 名古屋西労働基準監督署の資料
  - 資料1：RA（リスクアセスメント）の扉
  - 資料2：リスクアセスメント導入促進研修会資料（2009年9月）
  - 資料3：安全衛生実務研究会テーマ「リスクアセスメント資料」
- 「危険性または有害性等の調査等に関する指針」

リスクの概念の理解

網羅性、合理性（論理性）の理解



考え方を变える、变えさせる

3

TORAY 3

# 2. 従来のリスクアセスメントの取り組み

「危険」な設備・作業

回転体、機械可動部、重量物

「危険」  
と思うところだけを対象

災害に至るプロセス

回転しているロール表面を直接ウエスで拭こうとしたので、ウエスがロールにとられて、手をロールに巻き込まれる。

考え方のベースは  
「危険予知」

作業者の  
「危険」感受性の範疇

リスク評価

リスク低減措置

危害の  
発生確率・ひどさを評価

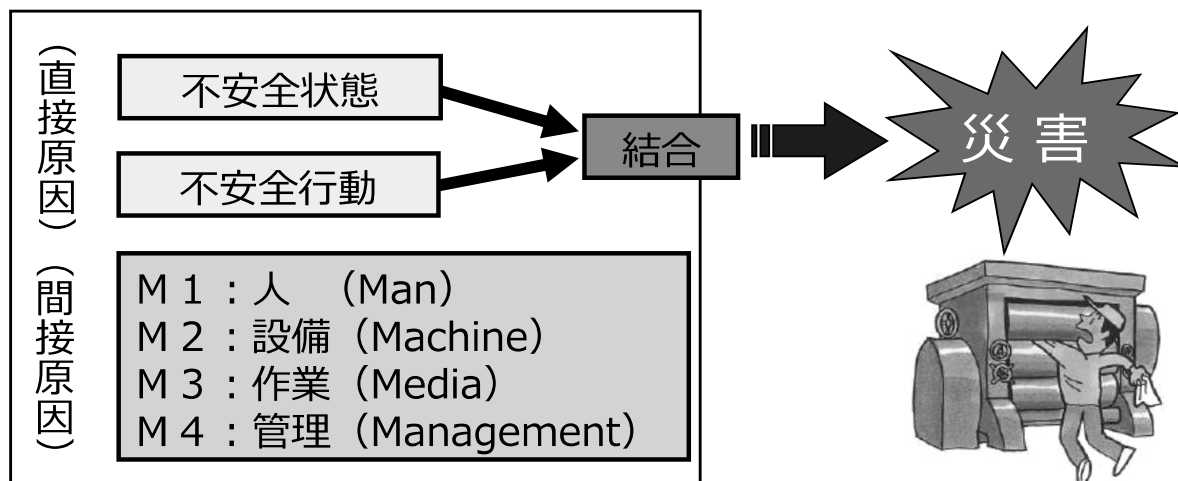
リスクアセスメント実施の誤解：手法に目がいく

4

TORAY

### 3. 災害発生のプロセス

災害の多くは直接的な原因である「不安全な状態」と「不安全な行動」が重なり合って発生し、その背景には間接的な原因も存在する。



「不安全な状態」

災害を起こしそうな、またはその要因をつくり出した物理的な状態や環境

「不安全な行動」

災害を起こしそうな、またはその要因をつくりだした労働者の行動

### 3. 災害発生のプロセス

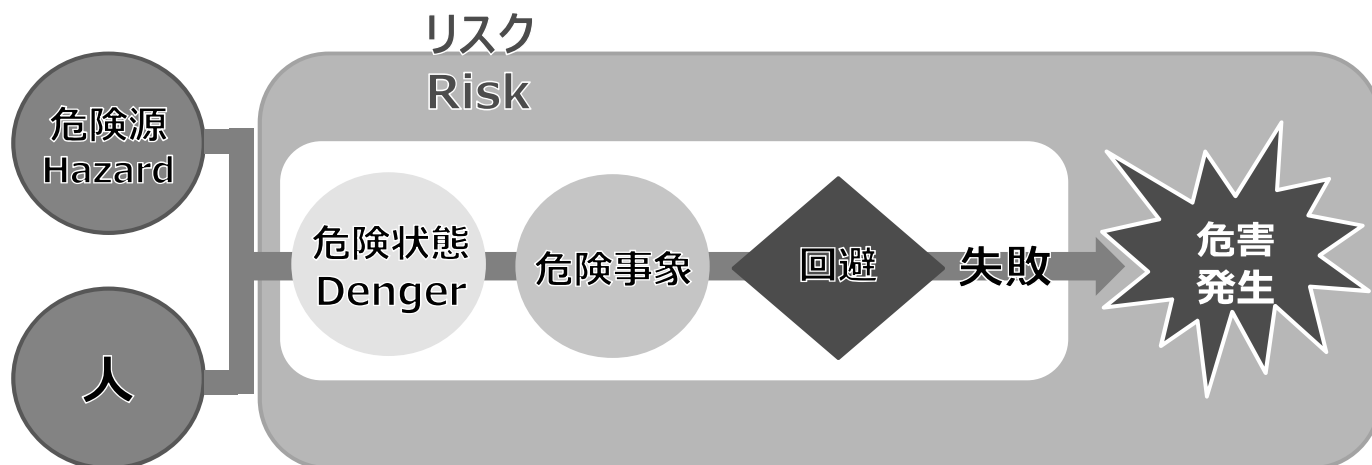
**危険源** : リスクが生じる原因、災害となる根元

**危険状態** : 人間が危険源に近づいた状態

**危険事象** : 安全対策不足や不備、ヒューマンエラーがあれば人間が危害を受ける状態

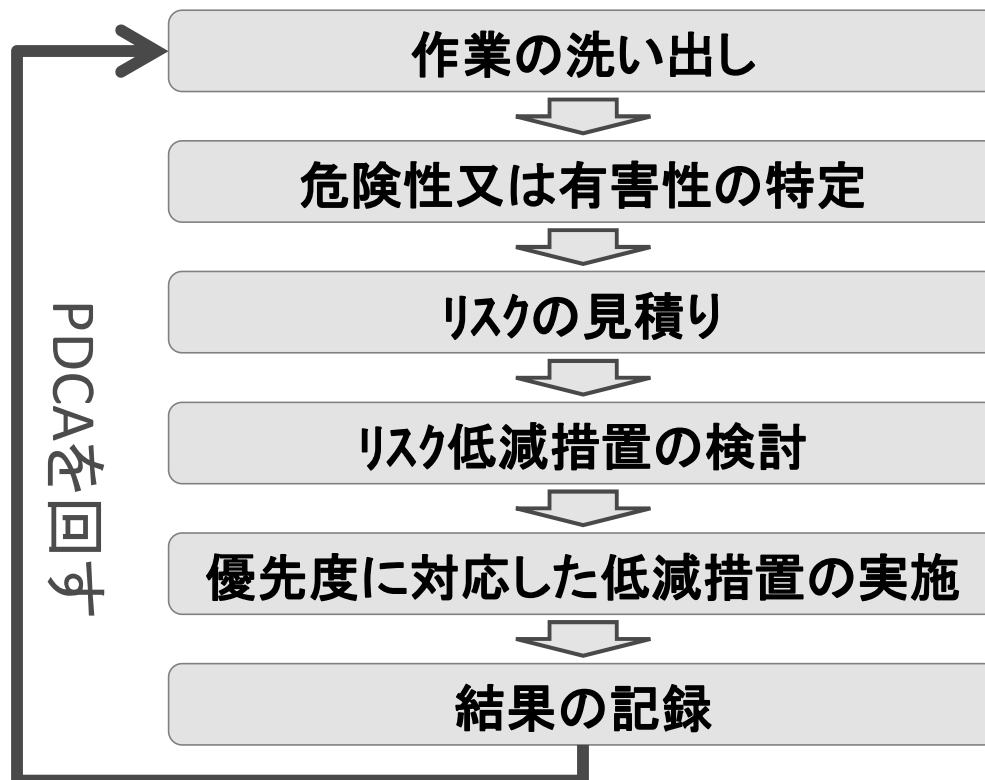
**回避** : 危険事象が発生したときに危害を受けずに済むこと

**危害** : 災害が発生し、人間が身体・健康障害を受けること



人は危険源と関わって作業し、常にリスクが潜んでいる

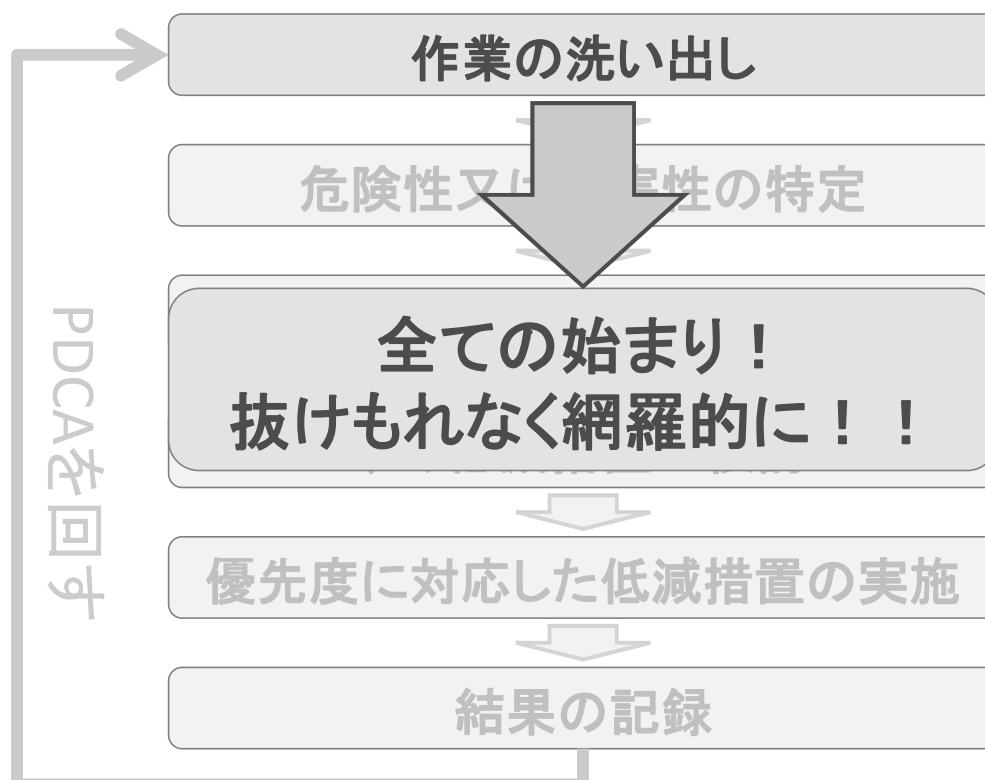
## 4. 新たなリスクアセスメントの取り組み



7

'TORAY'

## 4. 新たなリスクアセスメントの取り組み



8

'TORAY'

## 4. 新たなリスクアセスメントの取り組み

### 作業の登録（洗い出し）

各職場、グループ単位で作業のリストアップ（網羅的に）

#### ポイント

作業標準書だけでなくできるだけ網羅：日々の作業を振り返る  
定常・非定常作業などの制約・先入観を取り払って実施

### 作業登録書（ ）

別紙2-1

登録用紙NO. \_\_\_\_\_

作成日・見直し日: \_\_\_\_\_

作成部署: \_\_\_\_\_

整理番号	部署(部・課・掛・G)	工程	設備	作業名	作標有無	作標番号	実施者数 (人)	作業者数 (人/回)	作業頻度 (回/月)	作業時間 (H/回)

9

‘TORAY’

## 5. まとめ

### 勉強、討議をして

- (1) リスクアセスメントは法律で求められていること  
→法令遵守（ルールを守る）
- (2) 日本人は合理的、論理的に考えるのが苦手だが、  
国際的な流れからみても、これを求められていること  
→世界標準は「安全を立証すること」を求めている  
→経営理念・行動指針にある「社員の安全を守る」
- (3) 従来の「危険」探しで見えてない部分をみることが出来る  
→現場・現物・現実をみる、リスク評価で明確にもなる
- (4) 網羅的に調べる事は膨大だが、取り組むことが大事

「危険探し」から「リスク確認」へ、思想転換

## 5. まとめ

現場・現物・現実を確認することから始めよう！



# ‘TORAY’

Innovation by Chemistry